受理年月日	令和3年12月23日	付託年月日	令和3年12月24日	所管委員会	福祉都市委員会
番　　号	3　年　　請　願　　第　17　号				
件　　名	須崎公園より移植された樹木の管理及び時代に合った新・緑の基本計画の作成について				
請 願 者	南区平和一丁目15－37 福岡の自然を守る市民の会 代表　花田　淳子				
紹介議員	森(あ)[筆頭]、荒木				
分割付託	総務財政委員会（3年第16号）				

要　　旨

市は現在、新しい市民会館の建設のために須崎公園の大半を建設用地にすべく、公園内の樹齢60年近い大木から成る約400本の樹木のうち周辺部の若干を残して、伐採と移植の作業を続けています。

市は、周辺住民に対して十分な説明を行ったとしていますが、多くの市民はその計画すら知らず、一部の市民が事業計画の詳細な説明を求め、情報開示請求により101本を残し217本を移植、79本を伐採するという回答を得ました。そこで市民らは11月18日に800近い署名を髙島市長宛に要望書とともに提出し、市長自らの説明を求めましたが、回答はなく工事は今も続いています。

去る12月6日に移植先の雁の巣レクリエーションセンターを調査したところ、球技場の一角に密集して植えられた60本足らずの木々の姿は、枝をほとんど切り落とされ根がつくかも分からないほどにそぎ落とされて、まるで墓標のようでしたが、これらの木々はこれからどうなるのでしょうか。同日、須崎公園内も撮影し、残りの移植予定の木を数えると20本ぐらいでした。残りの140本はどこへ行ったのでしょうか。

福岡市はアジアのリーダー都市となるべくＳＤＧｓの17の国際目標の達成を標榜していますが、文化施設建設のためとはいえ、小さな森を破壊し、木々を葬り、市民の目から覆い隠す。にもかかわらず、木々を運び出すゲートは教育機関である高校の真っ正面にあるのです。このずさんさと傲慢さ。市民は失望しています。たとえ業者に丸投げしたとしても責任は市にあるはずです。市は、地球温暖化をめぐる世界の潮流を理解していないのではありませんか。

世界中が森林を増やそうとしている中で、地域の森林面積を減らすならば、どこかでその代わりを作らなければコンセンサスを得ることは難しいと言われています。新しい市民会館も、それを文化の拠点施設と位置づけるのであればなおさらのこと、市民への説明を重ね、理解を求める必要があったはずです。また、昨今、市内の街路樹や公園の木が強剪定され、予告のない作業の実施に市民との間でトラブルが起きている現実を市はどの程度認識しているのでしょうか。

人生において樹木の存在が大切な思い出と重なり、生きるよすがになっている人は大勢います。実際、須崎の森の喪失を今も納得できずにいる人々を間近に見てきました。巨樹には魂が宿り、人の思いを受け止める力があると日本では古来より信じられています。行政に携わる方々は、それらの人々の存在を忘れないでいただきたいのです。

どうか、誰一人取り残さない、次の世代に向けて誇れるまちづくりをお願いし、以下の事項を請願します。

1．須崎公園より移植された木々の消息を追跡し、それらの樹木を必ず生かすこと。その管理責任の所在を明確にし、結果を市民に公開すること。

2．現在の指針となる新・緑の基本計画は平成21年に作成され、既に10年以上経過しているため、環境問題に配慮し、時代に見合った新たな緑の基本計画を早急につくること。

審　　査 年　月　日	令和　　年　　月　　日	結 果		委員会 令和　　年　　月　　日
	令和　　年　　月　　日			本会議 令和　　年　　月　　日
	令和　　年　　月　　日			

令和３年12月23日

福岡市議会議長

伊　藤　嘉　人　様

請願者　　住所　〒815－0071

福岡市南区平和１丁目15番37号

氏名　花田淳子[redacted]

（福岡の自然を守る市民の会　代表）

第293号
－3.12.23
議事課

福岡市の公共工事における現行の樹木の施行管理の改正、及び時代に合った新・緑の基本計画の作成を求めます。

〈請願趣旨〉

福岡市は現在、新しい市民会館の建設のために須崎公園の大半を建設用地にすべく、公園内の樹齢60年近い大木からなる約400本の樹木のうち周辺部の若干を残して、伐採と移植の作業を続けています。　市は、周辺住民に対して十分な説明を行ったとしていますが、多くの市民はその計画すら知らず、一部の市民が事業計画の詳細な説明を求め、情報開示請求により101本を残し217本を移植、79本を伐採するという回答を得ました。そこで市民らは11月18日に800近い署名を高島市長宛に要望書とともに提出し市長自らの説明を求めましたが、回答はなく工事は今も続いています。

さる12月6日に移植先の雁ノ巣レクリエーションセンターを調査したところ、球技場の一角に密集して植えられた60本足らずの木々の姿は、枝をほとんど切り落とされ根がつくかもわからないほどに削ぎ落とされて、まるで墓標のようでしたが、これらの木々は、これからどうなるのでしょうか。同日、須崎公園内も撮影し残りの移植予定の木を数えると20本ぐらいでした。残りの140本はどこへ行ったのでしょうか。

ご存知のように、福岡市はアジアのリーダー都市となるべくSDGsの17の国際目標の達成を標榜していますが、文化施設建設のためとはいえ、小さな森を破壊し、木々を葬り、市民の目から覆い隠す。にもかかわらず木々を運び出すゲートは教育機関である高校の真っ正面にあるのです。このずさんさと、傲慢さ。市民は失望しています。たとえ業者に丸投げしたとしても責任は市にあるはずです。

福岡市は、地球温暖化をめぐる世界の潮流を理解していないのではありませんか。

世界中が森林を増やそうとしている中で、地域の森林面積を減らすならば、どこかでその代わりを作らなければコンセンサスを得ることはむずかしい、と言われています。新しい市民会館も、それを文化の拠点施設と位置づけるのであれば、尚更のこと、市民への説明を重ね、理解を求める必要があったはずです。また昨今、市内の街路樹や公園の木が強剪定され、予告のない作業の実施に市民との間でトラブルが起きている現実を福岡市はどの程度認識しているのでしょうか。

人生において樹木の存在が大切な思い出と重なり、生きるよすがになっている人は大勢います。実際、須崎の森の喪失を今も納得できずにいる人々を間近に見てきました。巨樹には魂が宿り、人の思いを受けとめるちからがあると日本では古来より信じられています。行政に携わる方々は、それらの人々の存在を忘れないでいただきたいのです。

どうか、誰ひとり取り残さない、次の世代にむけて誇れる街づくりをお願い申し上げます。

〈請願事項〉

①樹木を扱う公共工事では、事前に市民への説明を重ね、市民の理解を深める努力をしてください。また、業者への指導を徹底するなどのルール作りをお願いします。

②須崎公園より移植された木々の消息を追跡し、それらの樹木を必ず生かしてください。その管理責任の所在を明確にし、結果を市民に公開してください。

③現在の指針をなる新・緑の基本計画は平成 21 年に作成され、すでに 10 年以上経過しています。環境問題に配慮し、時代に見合った新たな緑の基本計画を早急に作ってください。